

【今年度の結果と取組みについて】

〇●国語●〇

(領域ごと)

- ①言葉の特徴や使い方に関する事項 概ね良好な結果であった
- ②情報の扱い方に関する事項 概ね良好な結果であった
- ③我が国の言語文化に関する事項 やや課題が残る結果であった
- ④話すこと・聞くこと 概ね良好な結果であった
- ⑤書くこと 良好な結果であった
- ⑥読むこと 概ね良好な結果であった

(問題形式)

- ①選択式 概ね良好な結果であった
- ②短答式 良好な結果であった
- ③記述式 概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問 2三イ:漢字を文の中で正しく使う
- ・もっとも正答率の低かった設問 2三ア:漢字を文の中で正しく使う
- ・もっとも無解答率の高かった設問 3四:日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができる

分析

全体的に全国平均や大阪府平均と比較して、やや高い傾向にあった。特に高いのは、領域では「書くこと」、問題形式では「短答式」であった。ただ最後の2問については無解答率が非常に高かった。これは時間配分において、最後までたどりつかなかった児童が多いためだと考えられる。

以上のことから、学力テストの解き方(わかる問題から解く、時間を切って次の問題に進むなど)を学校として伝えるだけでも、無解答率は下がるのではないかと考える。

これまでの東小学校は、「書くこと」が課題であったが、今年度の結果では、全国平均よりも高くなっている。引き続き「書くこと」への研究を進めていながら、子どもたちの書く力を伸ばしていきたい。

○●算数●○

(領域ごと)

- | | |
|---------|-------------|
| ①数と計算 | 良好な結果であった |
| ②図形 | 概ね良好な結果であった |
| ③変化と関係 | 概ね良好な結果であった |
| ④データの活用 | 良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問 1(2):口を用いた式に表すことができる
- ・もっとも正答率の低かった設問 4(3):道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する
- ・もっとも無解答率の高かった設問 3(3)球の直径の長さ立方体の一辺の長さの関係をつえ、立方体の体積の求め方を式に表す

分析

全体的に解答率が高く全国・大阪の平均よりやや高い結果となっている。図形の問題と問題形式の記述式の問題の正答率が低かった。

普段の学習で、基礎的な学力は定着しているのではないかと考えられる。

同じ領域の問題でも、短答式の問題は正答率が高いが、思考力・判断力・表現力を問われる記述式になると、無解答は少ないが、正答率が下がる結果となっている。関係性を考えながら情報を精査して活用することが課題である。

そのため、一年生から系統立てて、問題解決や自力解決に取り組んでいながら、発展的な学習も取り入れていく必要がある。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

正答率は国語科算数科ともに概ね良好な結果であったが、昨年度と比較すると正答率が下がった。国語科においては、無解答率が昨年度より高くなっている。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

学力高位層は、昨年度同様全国平均を上回る結果となった。特に国語科は上回った。しかし、学力低位層も昨年度より増え、それに伴いエンパワー層も昨年度を上回る結果となった。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

学力向上に関する取組み

基礎となる大きな柱

読み取り 書きまとめる力を 育てる

〈取組みの4つの柱〉

共に学び、共に育つ集団作りをめざして、子ども主体の授業づくりを進める。

①『読書』読み聞かせ 物語を楽しんで読む

週1回読書タイムを設定し、図書委員を中心に読書をする時間を設定したり、地域よりキッズサポーターに協力をしてもらい、絵本などの読み聞かせをもらう。毎週の読書タイムを楽しみにしている児童は多い。各クラスに学級文庫を設置して興味や関心が広がるような働きかけをおこない、秋の読書週間には、「絵の本ひろば」を開催し、図書委員会によるスタンプラリーなどの読書への興味関心を高めるような働きかけをおこなう。

②『交流』ペア交流 グループ交流などを授業に取り入れる

授業の中で、ペア学習・少人数のグループ学習を活動に入れ、自分の考えを「相手に伝える力」、コミュニケーション能力を身につけることへの力でだてをおこなう。読み取る力には個人差があるので、学習を進める際にはペア学習や、少人数のグループ学習で交流し学習を進める。

③『語彙力を高める』辞書の活用 主語述語への線引き 5W1Hの読み取り

児童の語彙を増やすために国語辞典を活用する。辞書を使用しない低学年を中心に、視写の取り組みを行うなど児童の成長過程に合わせながらおこなう。

④『書きまとめる力』授業の終わりに短くまとめる 場面ごとにまとめる

自分の考えや内容をまとめることを苦手としている児童もいるため、要約する練習や短文づくりにも取り組む。

〈学校の取組み〉

◎「問題解決学習」に取り組む。算数の学習を中心に問題解決学習を展開することで見通しを立て、自力解決をし、意見を発表し交流することで考えを広め、深める。

◎「学習保障」として授業でのスクールサポーターを活用しながら個に応じた指導をおこなう。

◎「東小スタンダード」を算数・国語で作成し、一貫した指導ができるように努める。東小スタンダードは授業の流れやノートづくりに対応できるようにする。

◎「家庭学習週間」を設定し、宿題のチェックや自主学習の習慣化をめあてに家庭と学校で連携を図る。「家庭学習のてびき」をそれぞれの学年に合わせて配付し自主学習の内容（漢字練習や計算の反復練習、意味調べ、調べ学習、読書など）を提示することで、学年に応じて宿題だけでなく自主的に学ぶ「自主学習」も行っていくるように働きかける。